



バックアップと復元の使用

バックアップ/復元は、システム保守プランの重要な部分です。各組織のバックアップ計画は高度に個別化されていますが、ASA FirePOWER モジュールにはデータをアーカイブするメカニズムがあり、障害発生時にはデータを復元できます。

バックアップ対象は次のとおりです。

- アクセス ポリシー、侵入ポリシー、およびアイデンティティ ポリシー
- ローカル データベース
- イベント

バックアップと復元に関する次の制限事項に注意してください。

- バックアップは、バックアップを作成した製品バージョンに対してのみ有効です。
- バックアップの復元は、そのバックアップの作成に使用したのと同じバージョンの ASA FirePOWER モジュール ソフトウェアを実行している場合のみ可能です。



注意 ASA FirePOWER モジュール間で設定ファイルをコピーするために、バックアップおよび復元プロセスを使用しないでください。設定ファイルには、ASA FirePOWER モジュールを一意に識別する情報が含まれているため、共有することはできません。



注意 侵入ルールのアップデートを適用した場合、それらのアップデートはバックアップされません。復元後に、最新のルールのアップデートを適用する必要があります。

アプライアンスまたはローカル コンピュータにバックアップ ファイルを保存できます。

- [バックアップ ファイルの作成 \(2 ページ\)](#)
- [バックアップ プロファイルの作成 \(3 ページ\)](#)
- [ローカル ホストからのバックアップのアップロード \(4 ページ\)](#)
- [バックアップ ファイルからのアプライアンスの復元 \(5 ページ\)](#)

バックアップファイルの作成

ライセンス：任意

ASA FirePOWER モジュールのバックアップは、モジュール インターフェイスを使用して実行できます。既存のシステム バックアップを表示して使用するには、[Backup Management] ページに移動します。イベントデータに加えて、アプライアンスの復元に必要なすべてのコンフィギュレーション ファイルを含むバックアップ ファイルを定期的に保存する必要があります。設定の変更をテストする際にも、システムをバックアップして、必要に応じて保存されている設定に戻せるようにすることができます。バックアップ ファイルを、アプライアンスに保存するか、ローカル コンピュータに保存するかを選択できます。

アプライアンスに十分なディスク スペースがない場合は、バックアップ ファイルを作成できません。バックアップ プロセスが使用可能なディスク スペースの 90% 以上を使用する場合、バックアップは失敗することがあります。必要に応じて、古いバックアップ ファイルを削除するか、古いバックアップ ファイルをアプライアンスの外部に転送してください。

あるいは、バックアップ ファイルが 4GB を超える場合は、SCP 経由でリモート ホストにコピーします。バックアップ ファイルが 4 GB を超えている場合、ローカル コンピュータからのバックアップのアップロードは実行できません。



注意 セキュリティゾーンとのインターフェイスのアソシエーションを設定してある場合、それらのアソシエーションはバックアップされません。それらは、復元後に再設定する必要があります。詳細は[セキュリティゾーンの操作](#)を参照してください。

ASA FirePOWER モジュールのバックアップ ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Tools] > [Backup/Restore] の順に選択します。

[Backup Management] ページが表示されます。

ステップ 2 [Device Backup] をクリックします。

[Create Backup] ページが表示されます。

ステップ 3 [Name] フィールドに、バックアップファイルの名前を入力します。英数字、句読記号、およびスペースを使用できます。

ステップ 4 オプションで、バックアップの完了時に通知を受けるためには、[Email] チェック ボックスをオンにして、用意されているテキスト ボックスに電子メールアドレスを入力します。

(注) 電子メール通知を受信するには、[メールリレーホストおよび通知アドレスの設定](#)で説明されているように、リレー ホストを設定する必要があります。

ステップ 5 必要に応じて、Secure Copy Protocol (SCP) を使用してバックアップアーカイブを異なるマシンにコピーするには、[Copy when complete] チェックボックスをオンにしてから、用意されているテキストボックスに以下の情報を入力します。

- [Host] フィールド：バックアップのコピー先となるマシンのホスト名または IP アドレス
- [Path] フィールド：バックアップのコピー先となるディレクトリへのパス
- [User] フィールド：リモートマシンへのログインに使用するユーザ名
- [Password] フィールド：そのユーザ名のパスワード。パスワードの代わりに SSH 公開キーを使用してリモートマシンにアクセスする場合は、[SSH Public Key] フィールドの内容を、そのマシンの指定ユーザの `authorized_keys` ファイルにコピーします。

このオプションをオフにする場合、バックアップ中に使用された一時ファイルがシステムによってリモートサーバに保存されます。このオプションをオンにする場合は、一時ファイルはリモートサーバに保存されません。

ヒント Cisco は、システム障害が発生した場合にアプライアンスを復元できるように、バックアップをリモートロケーションに定期的に保存することを推奨します。

ステップ 6 次の選択肢があります。

- バックアップファイルのアプライアンスに保存するには、[Start Backup] をクリックします。

バックアップファイルは `/var/sf/backup` ディレクトリに保存されます。

バックアッププロセスが完了すると、[Restoration Database] ページでファイルを参照できます。バックアップファイルを復元する方法については、[バックアップファイルからのアプライアンスの復元 \(5 ページ\)](#) を参照してください。

- この設定を後で使用できるバックアッププロファイルとして保存するには、[Save as New] をクリックします。

バックアッププロファイルを変更または削除するには、[Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Tools] > [Backup/Restore] の順に選択して、[Backup Profiles] をクリックします。詳細については、「[バックアッププロファイルの作成 \(3 ページ\)](#)」を参照してください。

バックアップ プロファイルの作成

ライセンス：任意

[Backup Profiles] ページを使用して、さまざまな種類のバックアップに使用する設定値を含むバックアッププロファイルを作成できます。後にアプライアンスのファイルをバックアップするときに、これらのプロファイルの 1 つを選択できます。



ヒント [バックアップファイルの作成 \(2 ページ\)](#) で説明されているようにバックアップファイルを作成すると、バックアッププロファイルが自動的に作成されます。

バックアッププロファイルの作成方法：

ステップ 1 [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Tools] > [Backup/Restore] の順に選択します。

[Backup Management] ページが表示されます。

ステップ 2 [Backup Profiles] タブをクリックします。

[Backup Profiles] ページが開き、既存のバックアッププロファイルのリストが表示されます。

ヒント 編集アイコンをクリックして既存のプロファイルを変更するか、または削除アイコンをクリックしてリストからプロファイルを削除することができます。

ステップ 3 [Create Profile] をクリックします。

[Create Backup] ページが表示されます。

ステップ 4 バックアッププロファイルの名前を入力します。英数字、句読記号、およびスペースを使用できます。

ステップ 5 バックアッププロファイルを必要に合わせて設定します。

このページのオプションについて詳しくは、[バックアップファイルの作成 \(2 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 6 バックアッププロファイルを保存するには、[Save as New] をクリックします。

[Backup Profiles] ページが開き、新しいプロファイルがリストに表示されます。

ローカルホストからのバックアップのアップロード

ライセンス：任意

表「[バックアップ管理](#)」で説明されているダウンロード機能を使用してローカルホストにバックアップファイルをダウンロードした場合は、ASA FirePOWER モジュールにそのファイルをアップロードできます。

バックアップファイルに PKI オブジェクトが含まれている場合、内部 CA と内部証明書オブジェクトに関連付けられた秘密キーは、アップロードの際にランダムに生成されるキーによって再暗号化されます。



ヒント ローカルホストからは、4GB より大きいバックアップはアップロードできません。代わりに、バックアップを SCP 経由でリモートホストにコピーし、そこから取得することができます。

ローカル ホストからバックアップをアップロードする方法 :

ステップ 1 [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Tools] > [Backup/Restore] の順に選択します。

[Backup Management] ページが表示されます。

ステップ 2 [Upload Backup] をクリックします。

[Upload Backup] ページが表示されます。

ステップ 3 [Choose File] をクリックして、アップロードするバックアップファイルに移動します。

アップロードするファイルを選択した後に、[Upload Backup] をクリックします。

ステップ 4 [Backup Management] をクリックして、[Backup Management] ページに戻ります。

バックアップファイルがアップロードされ、バックアップリストに表示されます。ASA FirePOWER モジュールによってファイルの整合性が検証されたら、[Backup Management] ページを更新して、詳細なファイルシステム情報を確認します。

バックアップファイルからのアプライアンスの復元

ライセンス : 任意

[Backup Management] ページを使用して、バックアップファイルからアプライアンスを復元できます。バックアップを復元するには、バックアップファイル内の VDB のバージョンが、アプライアンスの現在の VDB のバージョンと一致している必要があります。復元プロセスが完了したら、シスコの最新のルールアップデートを適用する必要があります。



注意 仮想 Firepower Management Center で作成されたバックアップを物理 Firepower Management Center に復元しないでください。システム リソースに負荷をかける可能性があります。仮想バックアップを物理 Firepower Management Center に復元する必要がある場合は、サポートに連絡してください。

バックアップファイルに PKI オブジェクトが含まれている場合、内部 CA と内部証明書オブジェクトに関連付けられた秘密キーは、アップロードの際にランダムに生成されるキーによって再暗号化されます。

ローカルストレージを使用する場合、バックアップファイルは /var/sf/backup に保存されて、/var パーティションで使用されているディスク領域の量とともに [Backup Management] ページの下部に一覧表示されます。



- (注) バックアップが完了した後にライセンスを追加した場合は、このバックアップを復元するときに、それらのライセンスが削除されたり上書きされたりすることはありません。復元の際の競合を防止するためにも、バックアップを復元する前に、これらのライセンスを（それらが使用されている場所をメモした上で）削除し、バックアップを復元した後で、追加して再設定してください。競合が発生した場合は、サポートに連絡してください。

次の表では、[Backup Management] ページの各列とアイコンについて説明します。

表 1: バックアップ管理 (*Backup Management*)

機能	説明
System Information	元のアプライアンスの名前、タイプ、バージョン。バックアップを復元できるのは、同一のアプライアンスタイプとバージョンに対してだけであることを注意してください。
Date Created	バックアップファイルが作成された日時
File Name	バックアップファイルのフルネーム
VDB Version	バックアップ時にアプライアンスで実行されている脆弱性データベース (VDB) のビルド。
Location	バックアップファイルの場所
Size (MB)	バックアップファイルのサイズ (メガバイト)
View	バックアップファイルの名前をクリックすると、圧縮されたバックアップファイルに含まれるファイルのリストが表示されます。
Restore	バックアップファイルが選択された状態でクリックすると、そのバックアップファイルがアプライアンスに復元されます。VDBバージョンがバックアップファイルのVDBのバージョンと一致しない場合、このオプションは無効になります。
Download	バックアップファイルが選択された状態でクリックすると、そのバックアップファイルがローカルコンピュータに保存されます。
Delete	バックアップファイルが選択された状態でクリックすると、そのバックアップファイルが削除されます。
Move	以前に作成したローカルバックアップを選択した状態でクリックすると、そのバックアップが指定のリモートバックアップロケーションに送信されます。

バックアップファイルからのアプライアンスの復元方法：

ステップ 1 [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Tools] > [Backup/Restore] の順に選択します。

[Backup Management] ページが表示されます。

ステップ 2 バックアップファイルの内容を確認するには、ファイルの名前をクリックします。

マニフェストが表示され、各ファイルの名前、所有者と権限、およびファイルサイズと日付がリストされます。

ステップ 3 [Backup Management] をクリックして、[Backup Management] ページに戻ります。

ステップ 4 復元するバックアップファイルを選択して、[Restore] をクリックします。

[Restore Backup] ページが表示されます。

バックアップの VDB バージョンがアプライアンスに現在インストールされている VDB のバージョンと一致しない場合、[Restore] ボタンはグレー表示されることに注意してください。

注意 この手順では、すべての設定ファイルが上書きされます。

ステップ 5 ファイルを復元するには、[Replace Configuration Data] を選択します。

ステップ 6 [Restore] をクリックして、復元を開始します。

アプライアンスが、指定したバックアップファイルを使用して復元されます。

ステップ 7 アプライアンスをリブートします。

ステップ 8 シスコの最新のルールアップデートを適用して、ルールアップデートを再適用します。

ステップ 9 復元されたシステムにポリシーを展開します。
